

長崎高教組

定通部だより

2013年8月27日

第4号

発行責任者 今泉 宏

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>

メールアドレス info@nagasaki-kokyoso.org

定通教育全国学習 交流集会IN大阪

参加者 濱本功二 (大村定)

江頭清隆 (佐工定)

今泉 宏 (鳴滝夜)

生徒 本田麻美 (大村定)

生徒 吉井咲羅 (大村定)

2013 定通教育全国学習交流集会in大阪

2013年7月26日(金)～28日(日) アウィーナ大阪

テーマ「学ぶ 働く つながる 大阪編」～高校生の修学と就労支援～

講演「安倍改革と大阪の教育」

講師 池田知隆 (毎日新聞論説委員、元大阪市教育委員会委員長)

(講演の主な内容)

大阪の教育改革とは、恫喝による上からの支配、教育への露骨な介入、文化、文化施設を破壊。橋下市長は、大阪の教師たちは、さぼってきた、成績が悪いのは先生のせいという診断をしている。

大阪は、全国学力テストで1964年全国6位だったのに2008年全国46位になった。これはなぜ？日教組の強いところが成績は低いという組合攻撃に使われた。最近では、繰り返し行う百ます計算などで、小学生の順位は少し上がったが、中学生になると元戻り。大阪の市役所職員の大半は大阪市に住んでいない、市の職員は多い、生活保護も多いなどの住民の不満が教育に向けられ、教師がさぼっているという理論になっている。

沖縄、大阪、北海道は離婚者が多く、その中でも大阪は狭い地域に住んでいる。持ち家率が低く、不登校率が高い(全国平均1.5倍)、朝ごはんを食べない、学習していない、自己肯定感が低いなどの問題が山積み。つまり教育だけ見てはいけない。橋下は強引に教育の問題にしようとしている。

成績が低いのは、無回答率が高く、成績の二極化が原因。大阪の先生の病気休養率全国の平均の2倍、精神疾患の先生が多い。橋下は大阪の先生はズル休みしているのでは？と言っている。また、大阪の教員試験の合格者辞退者数が10%越えているのも異常。

大阪の教育の危機とは、学力の2極化が顕著、下流志向、貧困拡大、子どもの減少。(子ども減少県福島と大阪が1位)

一方安倍政権の教育再生実行会議の目標は「強い日本を取り戻す、世界トップレベルの学力、規範意識を身につけさせる。」教育再生実行会議から見た日本の教育は「家庭教育力低下、悪平等、画一主義の蔓延、子供の個性の抑圧、いじめ、不登校、学級崩壊、青少年犯罪の続発」の悪い面ばかり。そこで、「道徳の教科化、政治家が教科書を選べる制度への改変」などを行おうとしている。実は日本の教育は世界的に見て少ない予算で頑張っている。貧困率が16, 3% (OECD平均10%より高い)のほうの問題。

橋下や安倍の考えは、消費者視点の発想。学校はそうではない ユーザーの意見だけでは成り立たない。これまで日本は長生き、格差の少ない世界に例を見ない国だった。これからも長いスパンで考える必要がある。いろんな国の人がいる大阪で、競争原理を取り入れると排除の論理になることを忘れてはいけない。



講師 池田知隆さん



学生による学習支援
ボランティアサークル
Atlas



高校生フォーラム



パネルディスカッション

参加生徒の感想

大村定時4年 本田麻美

いい経験になりました。普段では体験できないことを2日間で学びました。他県の生徒と学校行事やクラスの雰囲気などをたくさん話しました。少し愚痴も出たりしましたが楽しく過ごせたと思います。できればまた他県の生徒とお話したいです。

大村定時4年 吉井咲羅

自分が見ていた世界がどれだけ小さいものなのか気付かされました。そして、自分が無知であること、今の環境（仕事や学校の授業）がどれほど恵まれているかを知ることができました。

年齢も気にせず、もっと視野を広げていきたいと強く思った2日間でした。

高校生フォーラム

本県の生徒2人を含む、約15人の高校生が参加。「アルバイト」「就職」などそれぞれテーマで思いを語った。今年目立ったのは「ブラック企業」という言葉。高校生が過酷な環境、不利な条件で働いている現状を象徴していた。

パネルディスカッション「学校と社会をつなぐ 修学・就労支援」

馬場末春さん（あいち定通父母の会）

設置基準緩和で企業が作り、国からの補助金をもらっている広域通信制は問題が多い。少ない教員、安易なサポート校（塾・狭い会場）。自由な時間に登校できる、インターネット予約を売りにしているが、安易な単位認定で卒業率は高く、関連大学に簡単に入れるなど単位をお金で買うようなものではないか。教育はこれでよいのだろうか。

関口昌幸さん（横浜市政策局）

横浜では、三〇代前半で、半数の男性が未婚、女性の三五%が未婚、主な理由は経済的に困難。心配事がない人は、二〇〇〇年を境に、五〇%から一二%に急落。主な心配事は、経済的不安、未婚の子供の将来、働きたくても働けない状況。困難を抱える若者にとってきめの細かい制度が必要。

横浜のとりくみとして、中間就労から就職へ。若い世代から自立支援が必要、若者サポートステーションが必要学校への出張相談を行っている。また、子供の貧困対策として生活支援と学習支援。さらに高校生や特別支援が必要な生徒の出口支援として地域の中にいきいきと働ける場をつくるなどの未来を見据えた社会づくりを進めている。

立川さおりさん（キャリアコンサルタント、大阪府教育委員）

父の借金失踪、経済苦を経験し、大学には進学できなかったが、定時制初の就職支援員（修学就職支援）、キャリアコンサルタント 国家資格二級キャリアコンサルティング技能士、二〇一二年二月 大阪府教育委員会の公募教育委員に就任。全国初の公募、一二二人から一人選ばれた、大阪の教育に関わる重要なことを決める立場で六人の教育委員で決める合議制だが権限はない、知事に社会が変わってきたことを伝えたかった。

コーディネーター中塚久美子さん（朝日新聞記者）

不登校が変化している。家がある、親が見守ってくれていることで立ち直る生徒がいたが、今の不登校は質が変わってきた、家庭が今は崩壊している。これは個人の問題だけでなく、社会に問題がある。子供が受けるべき権利が受けられない、衣食住がきちんとできてない生徒がいる。

国が予算をつけないといけない、単年度予算でなく、数年を見通した予算を組まなければならないような方向に進めないといけない。サポステ予算に高校支援という予算が入っている。サポステも学校にあうようにカスタマイズしなければならない

情報を集め、行政にこの生徒に対してなにをしてくれませんかと言わなければ、高校からの働きかけが必要。自治体職員も教師も外に出て語る時代。そのことによって情報や考え方の共有ができる。

編集後記

日高教定通部として最後の大会、来年からは全教定通部となる予定です。中身の濃い、充実の三日間でした。（今）